

# ミシェル・フーコー入門

バリール・ヌスタート著

一九八四年に突然この世を去ったフランスの哲学者フーコーは、現代思想の巨匠として、その思想的な体系的な思想の全貌を明快かつ徹底的に解明した。その結果何が何を言

いずれにも属さず、双方が表現している西洋近代の主体と客体のあかたをさまたげ、位相から検証し、彼のどのあけるライスは、狂気と閉じ込め、性の抑圧、身体解剖へのまなざし、処刑と身体、權力と知、生命への社会統制、告白と自己のテクニク、ロシと多岐にわたり、それを考考古学と素語学という彼の独自の方法によって論述した。

## フーコーの思想の全貌を明快に



訳文も読みやすく、これまでこのようにながなあっただけに、フーコーに接近する第一の「かかり」として本書は待望に違いない。

現在と「はい」たい何であるのか。私たちが考え、語り、ふるまい、表現するもののその根底にあるものは、社会や文化とどのように関係しているのか。本書は、その問いを探った。フーコーの魅力的な探究への飛躍の入門書であり、同時にそれは、激動する現代社会に生きる私たち一人一人がつかえている切実な問題にかかっている。フーコーの思想は、主体的な生き方と生存主義と客観主義的価値主義が中心にある。だが、フーコーは

「フーコーの思想の全貌を明快かつ徹底的に解明した。その結果何が何を言